

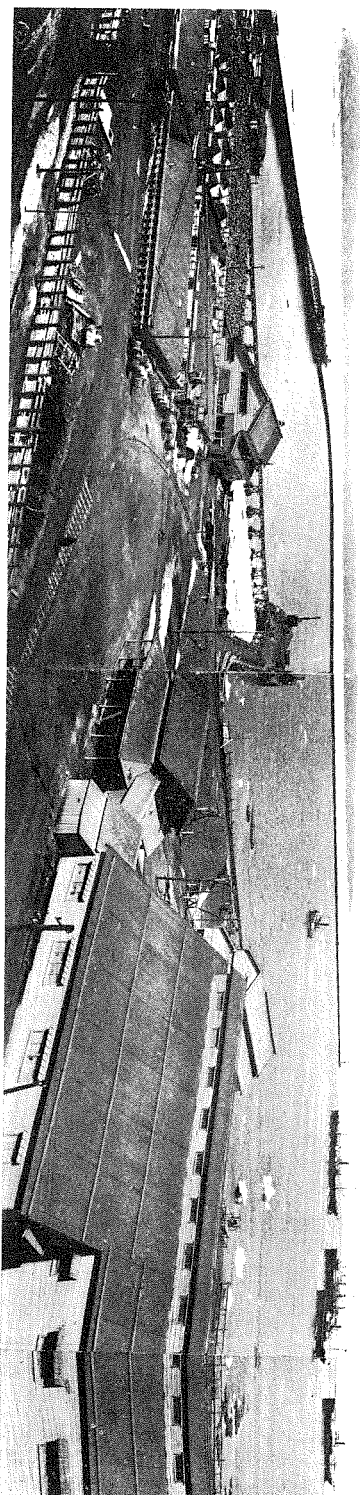
Views of Kushiro Harbor Construction, Hokkaido.

釧路築港工事の概要

釧路港は大平洋沿岸の重要な港湾であつて北海道東海岸に於ける運輸交通の要衝である。先づ其の沿革を見るに本港の修築計畫は明治二十一年屋技師、英國人ソー・エヌ・メーラ氏の設計を以て嚆矢とする。同三十一年北海道廳技師、工學博士廣井勇氏が精密な調査を遂ぐるに及んで、始めて工事設計の完成を見るに至つた。同三十三年、長官、園田安賢氏北海道拓殖十年計畫を構てるに方つて本港修築工事を編入し、帝國議會の協賛を求めたが

時運未だ到らず、不幸にして葬り去られてしまつた。爾來屢々要求してゐた所、其都度否決の憂目に遭つてゐた。明治四十年に至り、長官河島靜氏、本港修築の急を認め、技師關屋忠正氏に命じて再調査をさせ、十二箇年繼續の案を立て、第二十五議會の協賛を経、同四十二年度より修築に着手することとなり、茲に始めて本港修築計畫は確立した譯である。翌四十二年、本道拓殖十五年計畫成るや、翌四十四年、本道拓殖十五年計畫成るや、残程全部は之に編入せられ、更に大正五年に

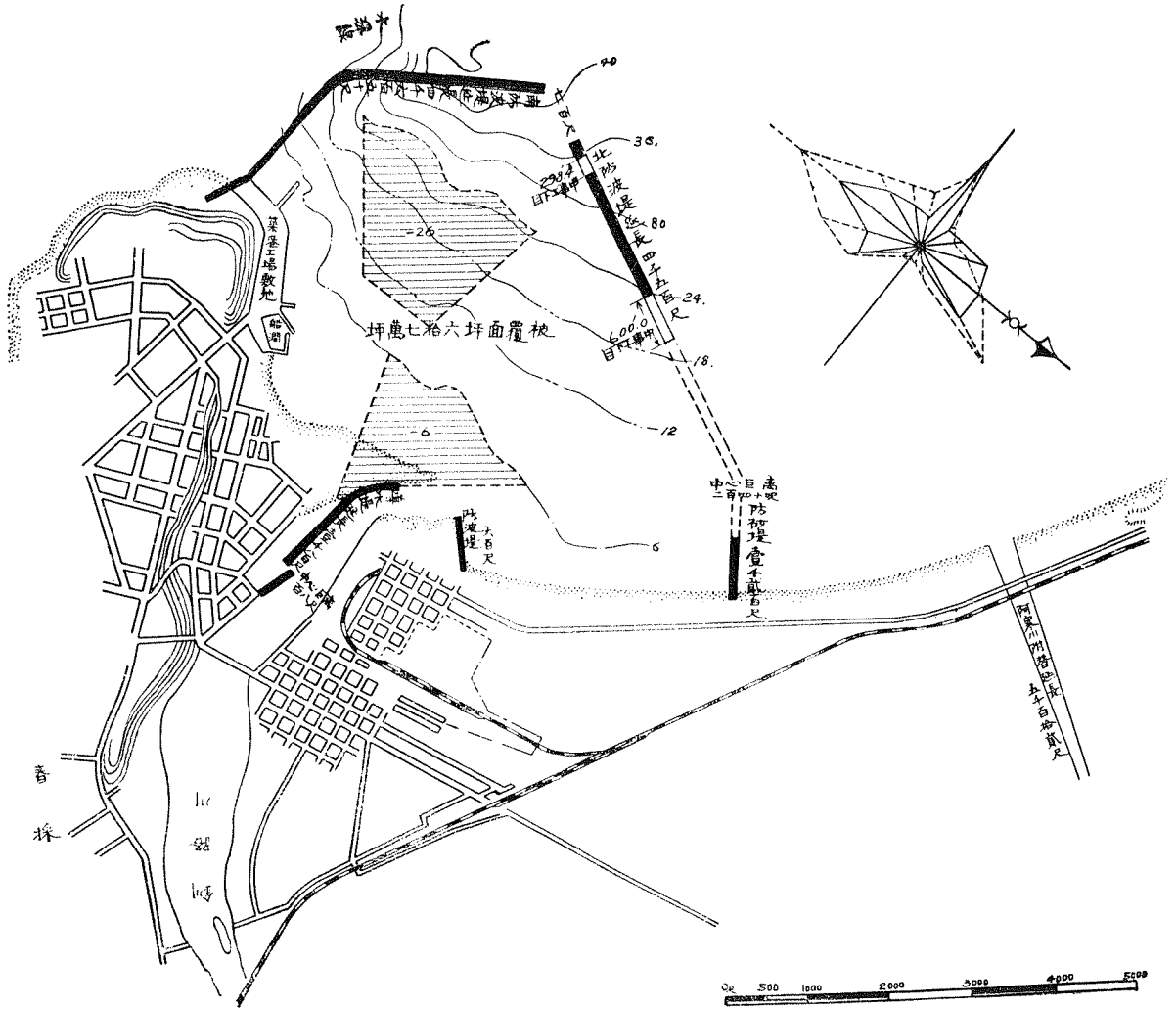
至り長官、俵孫一氏が計畫の改訂を企てた時従來南堤のみの計畫であつたのを、北堤をも築設して、港内を包圍することに變更した。大正九年、長官笠井信一氏が復た計畫の増訂を圖つた節、釧路川改修計畫に伴つて更に港域を擴大する等、漸次其規模が擴張せられて、現在に及んだものである。竣工期限を大正十五年度とし、今や大正十四年の工事中に在る。



(1) 冬期の釧路港築港(工事目下進行)

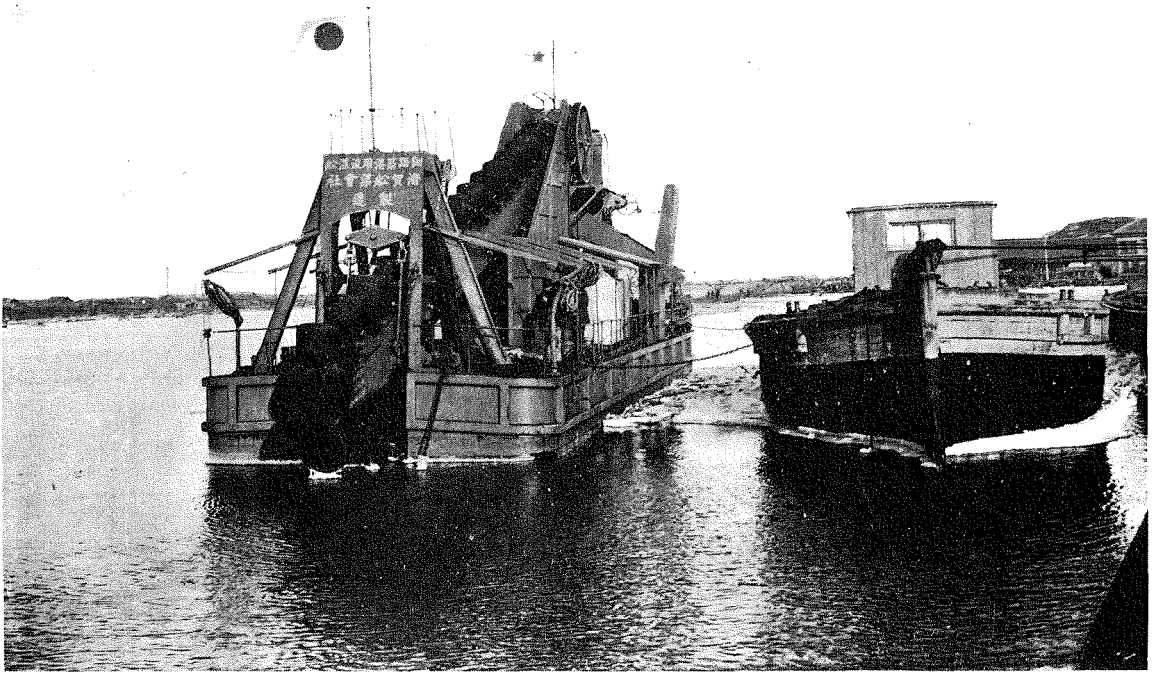
(1) Kushiro Harbor and Breakwater.

本港修築工事は防波堤築設、港内及釧路河口の浚渫
 並に床止、阿寒川附替、導水堤築設及び防砂堤築設
 等である。



(2) 釧路築港工事平面圖

(2) Harbor Plan of Kushiro.



(3) Dredge Used for Harbor Work, Kushiro.

(3) 淺瀬船明治丸(釧路築港)

釧路築港の概要

防波堤築設、南北の二堤を築設して六十七萬坪の水
面を圍繞するもので、南堤は、釧路燈臺の西方崖下
を起點とし、延長四千六百五十尺、其の構造は三種
に分類して、一は水の浅い礁上に築設するもので、
直ちに混凝土を場所詰とする、二は稍々水深のある
礁上の部分に、凹凸の海底岩盤を平にするために袋
詰混凝土を用ひ混凝土塊を積疊し、その上部は場所
詰混凝土を施すものである。三は堤の主要部にして
干潮面下二十四尺迄は捨石を以て基礎とし、其の上

に每個の重量四十餘噸の混凝土塊を上幅三十尺の傾
斜積として上部に厚四尺の場所詰混凝土を施し、干
潮面上八尺五寸に達せしむ。

北堤は港門七百尺を隔て、南堤と相對峙し、その延
長四千五百尺、その構造は捨石を以て基礎とし、南
堤主部に準じて三種に分類し、甲部は十四尺、乙部
は十八尺、丙部は二十四尺とする、そして乙丙部に
は其の上に厚さ二尺以上の場所詰混凝土を施工
す。



(4) 碎石工場(釧路築港)

(4) Crushing Plant, Kushiro.

釧路築港工事の概要

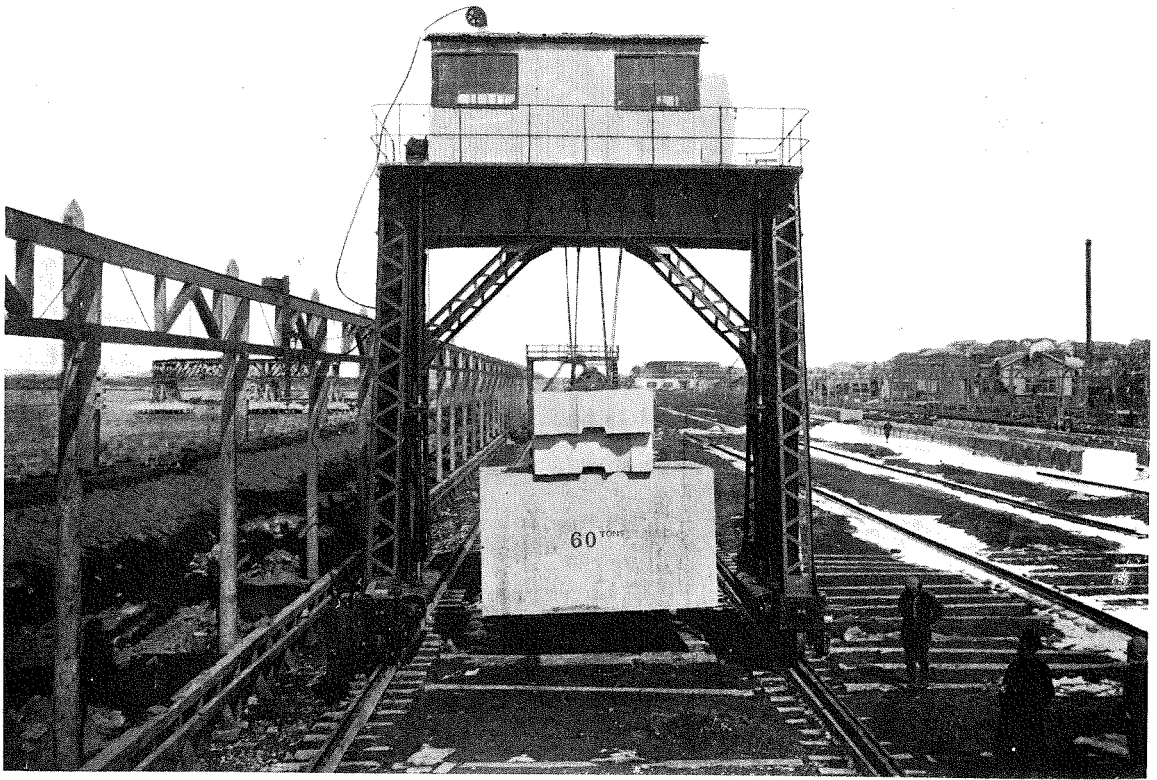
港内及釧路河口の浚渫並床止工事、港内の浚渫を二種に分ち、一は干潮面下二十六尺、他は六尺である、前者は港心面積七萬六千坪の部分で、大船の碇繋を便にし、後者は河口附近五萬五千坪の部分であつて船隻及小汽船の交通に支障を無くさせやうとする目的である、又床止工事は河口橋梁附近に於て河床を横斷して之を行ひ河底の現状を維持するにある。

阿寒川附替。釧路川の支流阿寒川は土砂の流出夥しく港内埋没の禍根を有するので、之を港外に

放流せしむるのである。

導水堤築設。釧路川左岸に築き河水を港外に導いて港内の埋没及び結氷を緩和すると云ふ目的であつたが、其後、釧路川治水計畫の確立に伴ひ港域を擴張した結果、止めてしまつた、將來は除去する筈である。

防砂堤築設。北堤甲部より二百四十尺の水路を隔て、北堤に相對し、海岸線と直角に築設するもので延長千二百尺、捨石を以て築く。



(5) Travelling Crane Handling Concrete Blocks.

(5) ブロックヤード及電動軌道起重機(釧路築港)

築 港 工 事 費

以上諸工事の施設に要する豫算額を下に記す。

六百九十六萬九千五百四十四圓	總 額
内 譯	
四十五萬三千八百六十二圓	俸給及事務費
百四十九萬四百三十二圓	器具機械費
四十五萬三千十五圓	工 場 費
百九十四萬三千三百六十五圓	南防波堤費
百五十五萬四千三百七十圓	北防波堤費

十二萬四千七百四十八圓	導 水 堤 費
五十一萬九千八十圓	浚 渫 費
八千三十四圓	港 燈 費
二十五萬七千六百九十五圓	河川切替費
十五萬九千二百二十三圓	防 砂 堤 費
七千二百三十圓	調 査 費

因に、目下北防波堤工事及浚渫工事に専心努力中である。